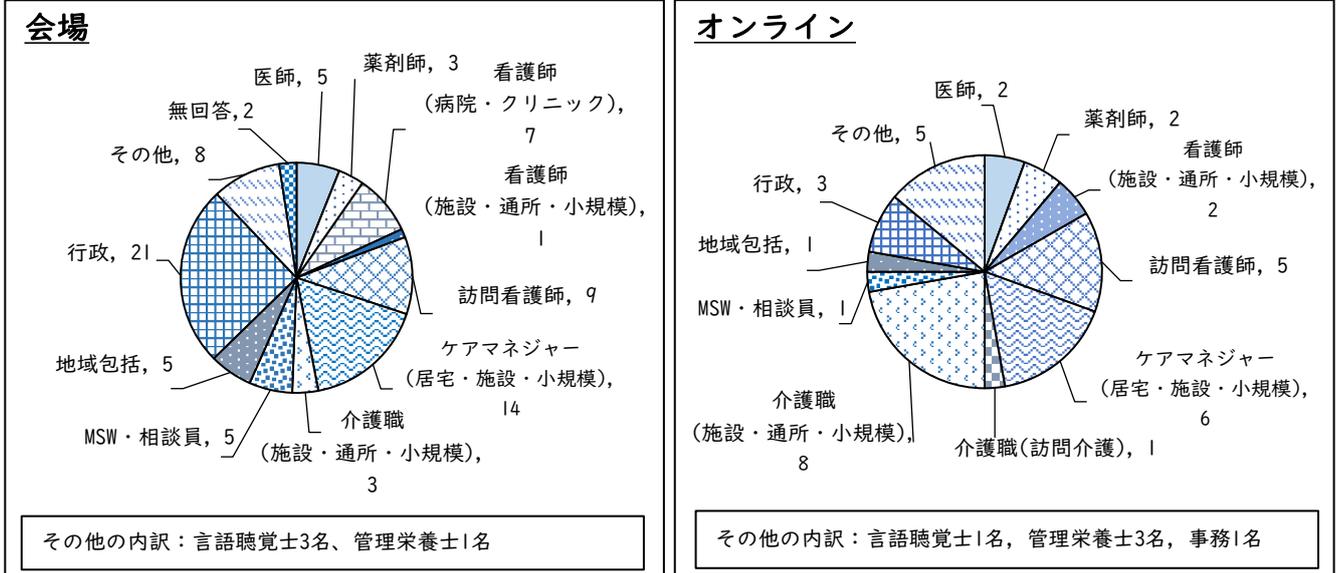


# 令和7年度 川薩地区在宅医療に係る災害対策研修会アンケート結果

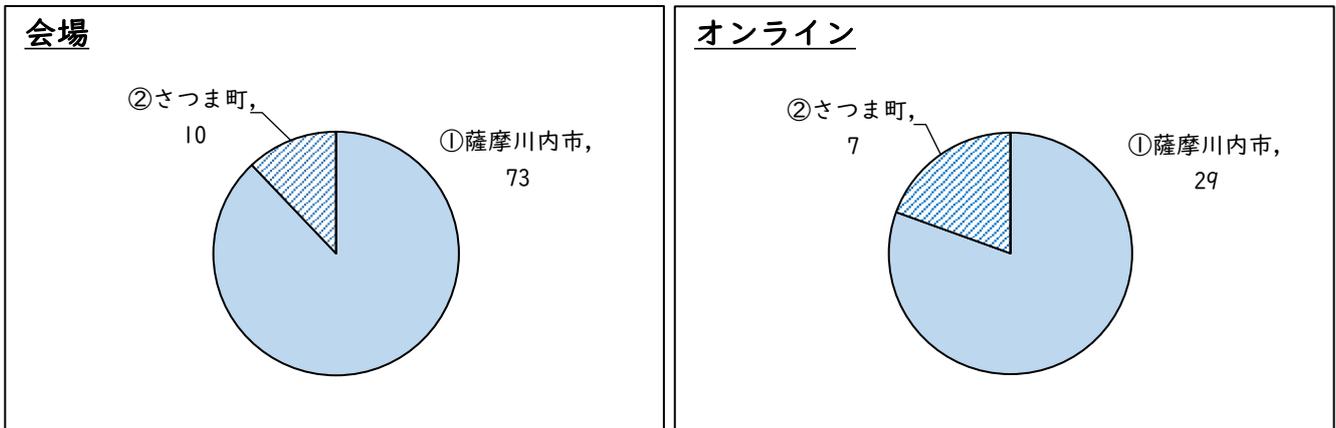
日時：令和7年4月18日(金) 18時30分～

回答率：会場 83/143名(58.0%)，オンライン 36/84名(42.9%)

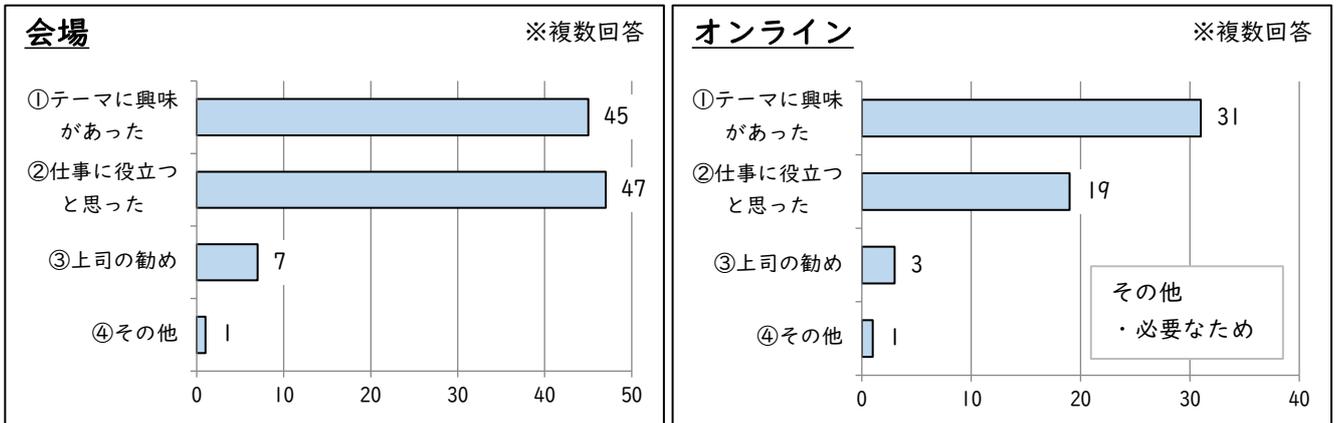
## 1. 職種について



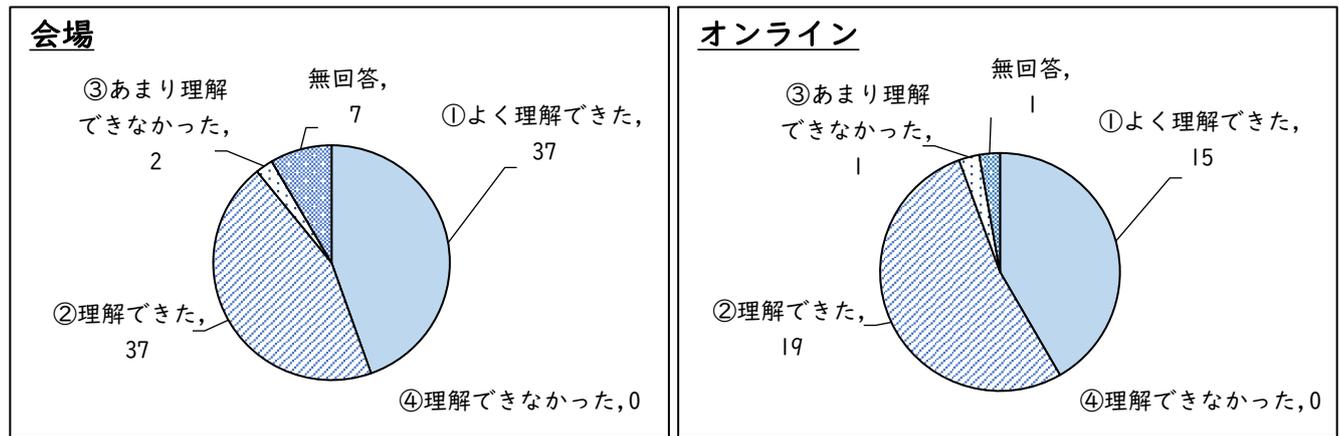
## 2. 本日はどちらから来られましたか(所属機関の所在地)



## 3. 本日参加した理由は何ですか(複数回答可)



4. 本日の講習とシンポジウムの内容について理解できましたか



5. 講演について印象に残ったことや感想などご記入ください。

〈会場〉

・課題が多すぎる。1つずつやるしかない！
・支援者の支援も大事，実際にやってみないと分からないことがある。
・電源の大切さ，感染症対策
・在宅医療の災害の問題は今まであまり考えたことがなかったので考えるいい機会になった。
・マニュアルを重視するのではなく，現状を理解したうえで援助が必要と感じた。個別にすることが大事と思い，衛生面の重要性をしっかりとみんなに伝達したい。
・孤独にならない環境を作る支援体制が（地域の基盤）必要だと感じた。医ケア当事者・支援者それぞれの声を知ることで今後の課題につなげられると思った。
・在宅・避難先の環境の確保，周りの支援者，移動のリスク等，災害が発生した際に自分達に何が出来るか，何をしたら良いか考えさせられる内容でした。一人ではどうする事も出来ない為，周囲の人々の関りを普通から密にして，情報交換，共有していくことの大切さを改めて思いました。
・近年，災害について多くのニュースを耳にする。明日は我が身…と思いがながら聞かせてもらった。すごく考えさせられました。今後の業務にとって大変参考になりました，有難うございました。
・正常性バイアスを打破する（想像力をフル回転させる）ことの大切さを感じた。自分でケアできるよう電源の確保の方法を考えるべきだと思った（先生がおっしゃったように電気自動車など）。病院も安全とは限らないと思う。患者家族会の自助の精神!!その通りだと思う。
・災害時には水が大事→トイレ問題の検討が必要と感じました。
・薩摩川内市も医療的ケア児・者に対し具体的な災害訓練を実施しているが，個別支援計画の不備がある。今後を考え，「自助」強化。
・「ガイドラインより人々をみる」「2次避難先での支援・支援者へのフォロー」など実際の経験からの考えを知れて良かった
・行政と医療関係者との情報交換（お互いの役割が分かっていない），当事者の声，支援者の声をお互いに言える場があったらと思う。
・自助努力を促しても何をしたいのか分からないと思われるとの事で，一緒に考え用意するの必要を感じた。
・細かい準備について話をしてもらい，とてもわかりやすかった。
・支援者を支援する（有事の際に仕事ができるようサポートする），市を跨いだ訓練（遠隔地の訓練），災害よりも怖いのは『孤独』だ，が印象深かった。
・日頃利用者に関わる中で話し合うのも大事だと思いました。災害に実際あったことが無いので実際の状況を見たり，聞いたり，そこで活躍する循環型の水源やバッテリー等に驚きました。鹿児島は水害が多いので多面的に考えていきたい。
・14年前の災害からの学びが多く，現場で必要な機材の開発支援に力を入れていて大変勉強になりました。
・実際に災害を目の当たりにされた笠井さんの具体的な生の現地の話をうかがう事ができてとても学びになった。
・患者さんへのすばらしい支援感動しました。
・常設型の発電機の必要性（LPガス）等，災害対策の備品の準備が必要。
・とても解りやすく，災害での本当の困り事というのがわかった。しかし実際自分がその時になって初めて利用者の困っていることが分かるんだろうと，今はまだ未知の世界で本当に災害があった時が不安である。
・災害時の色々な問題を1つずつ解決されている。在宅での介護の大変さが伝わりました。でも，精神の病気の方に対しても（認知症も含み）まだまだ問題があるのかなと思いました。
・現実的な避難の大変さを考えると在宅の方の気持ちになれば自分もしないと思う。その後の一連の支援があれば良い。
・実際に被災された方達よりの情報は，会社の想定に役立つ。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害初期の話のリアルってなかなか当事者から聞けない。トイレ、男女の風呂、生理、乳がん等きりがなく知らないことが多かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援者は高齢者だけではなく障害者・児も含まれていると気づき、目を向けていきたいと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所や災害現場において、支援者を支援する体制の重要性について新たな視点であった。医療や福祉関係でなく、様々な企業とも連携し、災害への備えとすることが大切だと思いました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時は想像力をめぐらす戦いという言葉が印象に残った。いかに想定するかということは、日々の取り組みからも重要と感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル、ガイドラインは大事だが、こだわりすぎない。人を見ることが大事。災害より怖いのは「孤独」。災害は起こらないことが一番ではあるが、常日頃からの地域づくりの必要性を感じた。有事に備える準備。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害についてこんなに取り組んでいる会社がある事</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めちゃくちゃ笠井さんの話が面白い、臨場感を感じる内容でした。防災に関して全く考えられていない自分に気づいて、自分のことと考えるきっかけになりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実例に基づいての講演であった為、現在自分たちの出来る準備やボランティアセンター機能、福祉避難所のあり方を考える機会となりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の現状、TV上からは伝わらない様子。防災時の用品等</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年の様々な災害に対応し、避難所での支援等いろいろ経験実践されてきたお話が聞いて良かった。又、様々な機器がどんどんできていくことも知れて良かった。特に電気関係、女性や子供への配慮等本当に大事だと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の基盤づくりは防災にとっては大変重要だと思いました。（医療的ケアなども近所に知られたくない方もいらっしゃる）日頃からの関係性の必要性を感じた</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に支援する為のハードがここまで進んでいるということを知った。何が使えて、使えないのか、準備しているだけでも備えになる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の備えについて改めて確認することができた。実際に起きた災害時の対応内容なども話が聞いて参考になった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民と行政の考えていることの違いや実災害でのニーズについて実際の声を聞いて良かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の初めにトイレが使えなくなることは知っていたが、ここまでとは思っていなかった。それによって感染のリスク、支援者として対策を取らねばならないと思った。（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の非日常を避難先に於いてよりあたりまえの日常に近づける対応（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害支援を多く経験されたからこそその問題・課題を聞く事ができた。支援をする側に対する支援も必要だという言葉が印象に残っている。（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災時の避難所での問題点（特にトイレ）を実際に経験された生の声を聞いて影響を受けた。（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者の声、支援者の声、大切なことだと思った。災害よりも怖いのは「孤独」。「支援者を支援する」は簡単ではないことに改めて気づかされた。（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政職として色々知らないことが多いことが分かった（薩摩川内市職員）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所はまずトイレから 支援者にまず支援のある仕組みを作っておくことが必要!!（薩摩川内市職員）</li> </ul>

#### 〈オンライン〉

<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政が本腰を入れないと、災害対策計画は絵に描いた餅にしかない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の災害現場の写真、特にトイレや女性、子供のリスクは印象に残りました。訪問看護師として利用者の命を守る視点で在宅の環境について再考したいと思いました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時のトイレの写真を見た時、TVなどでは知り得なかった実情があったんだと思った。看護師として、実際災害が起こった時、食べ物や飲み水確保だけでなく、清潔確保、感染防止の主要性を知ることができました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同訓練を予定するにあたり、地域との信頼関係の大切さなどの示唆を得られました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害等が起きて避難所で生活する際本人のプライバシー、介助者のプライバシーなどハード面以外のサポートが必要と感じた。また、単に非難するだけではなく個々に応じた支援が必要であると感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に起こったことをもとに当事者、支援者、地域(行政)の声など参考になった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際、災害にあってみないと分からないことばかりだと実感した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の問題、課題を事例があることで気づくことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者を支援する仕事ができやすいようにサポートすることで、円滑に医療ケアがすすむ。WOTA BOXなどの開発。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援が増える…困り事の対応策など細かな事を聞きたかった。ポータブル電源については参考になった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸の震災を思い出した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に災害現場で支援をされたことでの経験、生の現場の声を聞くことができありがたかった。また、はじめの方に、「助けにきてもらえるとは思えない」という正直な意見が印象的だった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的に有名な先生でもわかりやすい言葉で説明、講義いただき、親しみやすい雰囲気よかったです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のトイレ問題は、ラップポンの活用で解消されます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を維持する為に、思っていたよりも電力を使うことが分かった。また、災害に対しての設備などが少しずつ整っているのだと思った。</li> </ul>

・災害対策について、押さえるべきポイントが分かりやすかった。
・施設でもBCPを作成し、自然災害などの避難対策など訓練や対策検討を行っているが、実際の災害時の写真などをみていくと実際に災害が起こった時、自分達が、高齢者の方々が、医療ニーズの高い方々が本当に動けるか対応できるかと考えさせられた。
・水、電源の確保が重要だと認識しましたが、また避難所での生活するにあたり、問題点も認識できました。
・薩摩川内市も原発もあるためもう少し防災対策をするべきだと思った。
・消防等の実働部隊は自己完結型とっていたので、シャワー等の提供がされていた事を初めて知りました。
・災害に備えて、自治体との連携、自助の強化をすること、医療や福祉に関係ない人たちの理解を広げることが重要であるということが印象に残った。
・被災地の現状、課題など話を聞く中でトイレ、入浴など水の大切さを知り水の再利用する方法など印象的でした。
・実経験を踏まえての講演だったので興味深く聞きました。
・被災者の援助も必要だが、そこで支援するスタッフの働く環境の確保も必要であること。また衛生的な環境作りを早急に行わなければならないことも再確認でした。
・改めて感染予防における手洗い、保清の重要性を避難所の実態を伺う事で再確認できました。水と電源をどのように確保するかは要支援者だけではなく全員の課題であると感じました。
・トイレの問題など避難所でも実際に直面する感染症対策などの課題を知ることができたと思う。最新の防災グッズの情報も印象に残った。
・行政が主体となり力を入れて取り組まなければ難しいと思う。

## 6. シンポジウムについて印象に残ったことや感想などご記入ください。

〈会場〉

・地域や医療者が防災訓練に参加することは大事だと思った。受け持っている患者さんと一緒にできたらいいと思った。
・避難用品の移動が大変と思った。栄養剤は重たいものが多く、運ぶ方法やケアする方法を考えないといけないと思った。連携の必要性をどのようにするのかと思った。
・あらゆる災害に備えたマニュアルが必要だと感じた。実際の避難訓練を知る機会となり、とても勉強になりました。
・患者、家族、自宅周囲の人達も一緒になって訓練を行う事、事前に準備しておき、いざという時に対応できる様にしておくことの大切さを知る良い機会になりました。私の想像している以上に避難する時は労力を使うと思うので地域のつながり、周りにどんな方が居るか、手伝いが必要なことがないか考えて行動する事も必要だと思いました。
・災害に対しての危機感を持た。実際の避難の仕方を考えるよい機会となりました。
・大雨・地震・原発と想定される災害があるので考え直さないといけないと思った。社会的弱者（認知症・自閉・精神障害者等）の把握、地域共助のあり方、普段閉ざされた場にいる患者が社会との関わりを持ち問題共有すべきだと思う。
・なかなか避難できない現状を知ることが出来ました。
・多目的災害対応車輛等について詳細に教えて頂きたい。人工呼吸器にGPS付属とすることで安否確認可となる。
・どんな支援体制がとれるか考えるだけでなく実際に行う大切さ。拒否的な利用者への声掛けの仕方やしかけの大切さ。
・医療ケア児の家族の本音が聞ける場をもっと発信してほしい。専門職だけでなく、地域で支える環境・関係性は強みだと思った。
・要支援者の把握をするのに難しさがある。
・当事者家族やALS協会の里中さんのお話はとても説得力がありました。
・訪看としての準備不足も痛感しました。一つ一つ考えていく良い機会になりました。
・要援護者の正確な把握が難しい。日頃から避難経路の確認（出口・段差）が大切。持ち出し品の準備、優先順位をつけて確認する。日頃の訓練が大切（多職種連携）。日頃からの備えが大切。支援制度をアップデートしていかないといけない。情報共有。
・実際にびっぐすまいるさんがしている取り組みをみて、訪看から見た視点・おくすり手帳をもって行った方がいいのでは、という点は、初めて聞きました。避難訓練を大人はしたがらない、そこで行きたくなる取り組みも大事なんだと思いました。医療ケア者の荷物が40kgになるのも課題だと思いました。
・在宅で医療機器を使用している方は停電時の対応に不安が大きいと思いますので、訪看や訪問診療等の協力や医療機関への入院での対応の必要性を感じました。
・災害で起こった実際の状況を知ることができた。そこには被災した患者の生活が生々しくあり、人間の尊厳というものを感じた。
・完全な準備は困難で出来る限りが重要、そしてシミュレーションが大切だと思った。
・現場で動いて避難をされた家族の生の声が響きました。
・地域の実情を知らないんだと思った。
・避難行動、要支援者の同意など難しい面も多いと感じられました。避難訓練など多職種連携が重要であると感じた。
・行政が何を把握して何を重視していくのかそれも全く未知であるんだろうと思う。まだまだ課題山積である。

・計画に対して同意している人が少ない。日々増減があるが、数字には反映できていない。各々の考えがある為に、協力してもらおうことが難しいのかなと思った。
・呼吸機器などの医療機器を使用されている方の把握は難しく、災害支援がきちんとできるか分からないですね。
・「訓練」のワードを使わない訓練
・川内の避難について、訪看や当事者から話を聞けて、我々も一緒に参加しないと思った。
・ご家族や支援者のお話を伺い、いろいろな人・場所・時間を想定する必要があることを言われた事が印象に残った。
・医療的ケア者・児の実際の支援状況について、普段から担当する方の災害時の対応について事前に決めごとを行っていく必要がある。
・行政も大変だが、もっと知って欲しいと感じた。
・市の大変さについても理解出来ました。
・気づいたら災害訓練になるような工夫が必要との言葉が印象的であった。楽しみながら訓練ができればいいな。
・家屋調査からの避難経路の確認
・人工呼吸器が必要な方はもちろんですが、災害時であっても電源（電気）が必要なことが多いので、発電機の必要性を感じた。電気が無くても呼吸ができる方法も知っておかねばと思った。
・患者様のご家族の自助だけではなく、周りに頼って頂く事、共助をどう作っていくかも大切だと感じた。
・災害時に備えて思っていた以上に具体的な取り組みがわかった。水や嵩張るものは避難所に置いてあると身軽と思う。
・患者家族の話聞くことができ参考になった。
・内容が主題とずれていたような
・各家庭に合った避難の在り方をしっかりと考えていける仕組みづくりが大切と感じた。（薩摩川内市職員）
・自分で避難する事の難しさを理解した。建物倒壊等のリスクがないなら自宅で電源確保が最も安全か（薩摩川内市職員）
・各市町において要配慮者などの把握し難いことが理解できた。（薩摩川内市職員）
・本市近隣の市町村の状況を知る事ができた。避難に関しては課題が多いと感じた。（薩摩川内市職員）
・それぞれの機関の考え方を学ぶ事ができて参考になった。（薩摩川内市職員）
・旅館の避難所の検討→固定資産税減免、ケア児のお母様の話聞いたこと（薩摩川内市職員）
・自助 共助 公助 の大切さ（薩摩川内市職員）

〈オンライン〉

・平日夕方の研修会としては時間が長くて大変だった。
・ALSのご家族のお話を聞き、改善点を学べた。
・訓練という敷居が高くなるため、普段から行く場所が避難先になる等の観点がおもしろいと思いました。
・講演会での話や、ALS協会の方の話を聞いて災害対策の意識が地域によってこれまで格差があるとは知らなかった。災害対策として、訪問看護ステーション内で行っているトリアージの日々更新や、災害が発生した時の動きを利用者様や家族とも協議していく必要性を感じた。
・在宅での蓄電池などといった災害の備品の費用面の現実について、あらためて気づかされました。
・行政で管理することの困難さを感じた。支援を必要とする支援者、家族のために日々から連携を図ることの重要性を再確認した。
・実際の想像ができた。高齢者は個人の避難訓練ができていないので怖いと感じた。
・障害児の在宅での避難訓練は、大変興味深かった。地域との連携は必須であると思った。
・自助、公助、共助の地域の防災力や訪看の実際の取り組みや事例を知ることができてよかったです。
・要介護3以上しか計画に入らないこと、それでも数字は分からないということ。取り残されている方が多い。
・必要なものを全部持って訓練をしたときに、一人で助けがないと重くて運べないということは印象的だった。
・停電時に在宅で呼吸器を使用されている方の御家族が交代でBVMで換気されたというのが印象的でした。御家族へのBVM使用について訓練されたのでしょうか？
・びっぐすまいる訪問看護の方の発表は事例を示され非常にわかりやすかった。
・薩摩川内市、さつま町の課題を知ることができてよかった。実際の患者さまやそのご家族の声が聞けてよかった。
・市町村の支援を必要としている方の把握の状況が本来の支援を必要としている方全てにでないことには驚いた。
・実際の避難訓練を通しての課題点等が見えてくるので避難訓練を定期的にするのは大事だなと思いました。
・医療的ケアが必要な方の災害時の避難は多職種、地域の支援がなければならない。避難訓練の重要性が再確認できた。
・最後の質疑応答の際にお話しされた「自助の重要性。在宅での生活を選ぶ覚悟」のお話が印象的でした。
・難病を抱えた当事者家族の被災時の支援について、実際にシミュレーションを行うことが必要だと感じた。必要な物や運搬時の重量、電源のことなど事前に考えておくべきことは多いと思う。

7. より良い災害対策を行うために地域全体でできることや課題解決すべきことがありましたらご記入ください。

〈会場〉

・興味をもって関心を持つことが大切。
・個別マニュアル作成
・災害はいつ起こるか分からない為、日中の訓練はありますが、夜間、早朝（参加できる人が限られると思いますが…）の訓練等も出来たら、明かりの確保、就寝、保温の確保等の課題が見えてくるのかな…と思ったところでした
・行政との連携が大事だと思いました。多職種との連携も課題だと思いました。多くの講演会・会議等に参加し、自分の顔を覚えてもらい関わりを広げていきたいと思いました。
・（地域の若手として）高齢者を訓練に引っ張り出す“氷川きよし”に匹敵する何かを考えてみたい。 田舎だから出来る助け合いを大切に。自助の備えも大切に。
・電源の確保の大切さ
・地域の避難訓練
・災害対応目的の担当者会議を毎年実施し、関係機関との共有をすることが重要か？
・どこに避難時に支援が必要な人がいるのかを見える化
・委員会など、体制づくりが必要。
・各自治体（自治会）で年数回の訓練などしても良いかと思います。
・在宅での準備、備えが大切。
・それぞれの職種が連携を図って、情報共有し、個別避難計画へ結びつける必要があると感じた。
・市町村の方々との日頃の連携が大切と思いました。
・支援の体制づくり、あらゆる災害を想定した訓練、自助・共助・公的の再確認、随時検討、確認をしていく、地域の人々と情報共有する。
・もっと行政の介入が必要
・いろいろと災害対策について学んでも、いざ実際に避難しなければいけない場面がきたら、行動に移すことが出来るのだろうかと思う。まず避難場所や役割など制度をまだまだ勉強しないといけないと思った。
・医療、福祉以外の企業との連携や協力
・訓練という義務的な言葉が興味を遠ざける。行政が金をかけてでも大規模イベントにしてほしい。
・自施設の電源等の準備など備品の整備を順次進めていく
・在宅に避難支援の人がいる事を知る事は「たしかに」と思いました。
・行政の方々は色々取り組んでくださっていると思います。でも私たちはこうして研修に参加して初めて知る事も多かったです。もっと色々な職種・地域を巻き込むことができればいいとも感じた。
・多くの方にこのような研修に参加していただき、地域全体で考えていけたら良いのかなと思いました。
・やはり、結局地域で生活するのも、災害にあった時も人間関係が役に立つと感じた。まず地域住民の方々に災害対策を認知してもらい、実際おこなった時に課題が出てくるのではないかと思う。その災害の地域でなければ他人事に自分もなっている。
・自分や家族を守る為には、いろんな方の助けが必要となるので自治会へ加入する事も大切なのかなと考えました。※けれども、自治会費が高い、清掃活動が多いとか…問題多い 勝手だけど災害時は助けて欲しいという思い
・一人一人のやる気、努力、周知
・地域ごとで話す機会を増やした方が良いと思います。形だけでは本当の課題はイメージできないと思います。自分も水害にあった時は大変だった。支援者をもっと大変だろうと思う。
・被災地図 車で避難するので、MAPを普及・啓発してください。
・人任せにせず、自分たちでも備える力をつけさせることが大切だと思った。
・今回のような災害地での体験をした立場からの話やアドバイスをもらう機会が多くなっている。その中で、自助・共助意識を高め、必要となる準備を行っていく必要がある。
・市をまたいだ訓練、支援が必要な方の把握や、支援者を支援する、サポートする方を大事にするガイドラインがあっても良いと思う。
・笠井さんの研修をもっとしてほしい
・気が付いたら避難訓練になっていたという活動ができたら良いと感じました。
・孤独、孤立をしないように日常生活で地域や周囲の人との関係性を維持していくことを心がけていく。
・地域の方も知る機会があればと思った。
・災害用品を購入する際の補助や災害に対して意識を向け、他職種と連携する必要があるなど感じました。
・小さな単位での避難訓練や人間関係を作っていくこと（最近薄れていると思う）
・いろいろな機器の停電時を想定しての訓練
・まずは地域にどのような方がいらっしゃるのかを知る事。そしてその方々と一緒に何が出来るかを考えていくことから始めたい。

・まずは自分事として訓練に取り組む。地域の取り組みに参加する。要支援者だけでなくすべての人々にまずは発信。
・個別避難計画の内容確認，作成時の協働連携，避難訓練の実施などが積極的に実施出来るようにする。
・小，中，高校を含め，防災教育をしてほしい。
・避難訓練について，地域住民が参加しやすい仕組み・案などしっかりと考えていきたい。（薩摩川内市職員）
・行政の立場からは準備を整える重要性を再認識できた。（薩摩川内市職員）
・災害時はまず“自助”と言われるが要配慮者家庭などは自助すら困難であり，まずは共助であると感じている。様々な課題があるが，まずは地域での連携が必要であると思います。（薩摩川内市職員）
・実災害を想定した訓練をすることが一番（薩摩川内市職員）
・訓練の工夫，協定の再点検（薩摩川内市職員）
・一件でも多く，訓練を実施すること。個別避難計画などの実行性を高めるために。（薩摩川内市職員）
・共助-地域とのつながりを作っていくこと（薩摩川内市職員）
・防災について話し合う事，雑談でもいいので。そこから始めることがまず大切ではないかと思う。（薩摩川内市職員）
・水，電気の確保について（薩摩川内市職員）

〈オンライン〉

・災害の内容・状況によってその対策も異なるので，それぞれの災害に応じた対策が必要。
・災害練習は実際に行ってみたい。
・バッテリーの準備を整えていただきたい。また，活用できる時間の確認をしていきます。
・自治会のイベントを増やしたり，規模を大きく開催したりすることなどによって，自治会としてはその地区の人たちの把握や，参加者としては災害発生時に自治会がストックしている物品は何かあるか，どんな物品があるかなどの周知につながると思う。
・笠井先生の提言にありました「災害よりも怖いのは孤独である」，普段から地域交流を身近なところから始めていきたいです。
・地域のアドバイザー，民生委員さん等からの意見を聞きたい。
・地域の方への周知をしっかりとしてほしい。
・支援者名簿の更新。
・ご家族が相談しやすい環境の提供。
・だれかがしてくれるという発想ではなく自分が何かするという姿勢が必要と感じた。
・訓練の実施，地域にどのような人が住んでいるかの共有。
・施設のことをわかってもらい，地域との繋がりを持つことが大事だとおもった。
・地域にまずは溶け込むことが大事であり，共助の観点から，助けてもらう立場ではあるが，家族も余裕のある場合地域行事に参加するなど自ら知ってもらうことも大事ではないかと感じました。
・個別支援計画が，有事の際にどこまで通用するのか，また，支援したくてもプライバシーにどこまで踏み込めるのか，踏み込んでいいのか，地域住民も迷う部分があったり，行政内でどこまで状況を共有していいのか迷いがあったりと，やはりプライバシーに関係するところが難しいなと感じている。
・普段，生活している私たちがどのようにして防災意識を高め，自分が住んでいる地域に要援護者がどのくらいお住まいで私たちに何が出来るかを地域全体の課題とすることが大切だと感じました。
・行政や自治体を中心となり，地域全体に働きかけ行動に移す必要がある。
・高齢世帯で移動手段がない方の移動支援や身寄りのない方の実態把握など地域課題として解決すべきことが挙げられると思う。
・まずは，基本的な災害対策等に関心を持ってもらう。

8. 今後の研修会で聴いてみたい・学びたい内容があればお聞かせください。

〈会場〉

・5月の訓練に活かしていきたい。透析患者の備えは各医療機関（各自）にお任せなのでしょうか？
・今後も災害について学んでみたい。
・ハラスメント 虐待 ヤングケアラー
・個人で整えるべき物品について
・他県避難について（課題や対応）
・災害時の活動ができるロボット
・また笠井さんの話を聞きたい
・医療従事者を増やす・興味を持ってもらうイベント
・在宅医療支援センターの研修は毎回勉強になり学びの機会になっています。これからもより良い研修の機会を提供して下さる事を期待しています。
・いろいろな機器の使い方を学んでみたい。電気がない時の呼吸方法等学びたい。
・在宅医療でここまでできると、頭の固い医者や他の研修会かもしれませんが、一般向けにもしてはどうでしょう？
・職種別の研修会等をやって欲しい。
・様々な自治体の取り組み、要支援者に対する支援方法等（薩摩川内市職員）
・支援者の支援について計画ができていない。具体的な内容を知りたい。（薩摩川内市職員）
・要支援者に必要な支援について（薩摩川内市職員）

〈オンライン〉

・薩摩川内市の災害時の多職種連携と情報共有の方法と実際（行政・医療・福祉機関連携）
・薩摩川内市の避難所運営における福祉支援の実際（福祉避難所の運営・役割など）
・災害時のメンタルヘルス対策，災害時における感染症対策と衛生管理（避難所や在宅での対応について）
・総合防災訓練の課題など。（中学校区，訓練実施などあれば聞いてみたい）
・被災時に備えてどの様な事を準備しておく必要があるか。